

3 年	道徳	「なおとからのしつもん」	概 要	・学習の流れの固定化 ・教材選定 ・個別の目標	適 ×
手 立 て	① 毎回同じ流れで進む学習 見通しをもたせるために、道徳の基本的な流れは変えず授業をした。 ② 児童の生活に近い場面での教材を選択するようにした。 児童が想像しやすく、自分に置き換えて考えやすいような教材選択。 興味・関心を惹くことができる教材であり、前段での児童とのやり取りが盛り上がりそうな教材選択。 ③ 児童に応じた目標設定 児童別に少しずつ段階の異なる目標を設定し、正しく評価できるようにする。考えることを焦点化できる。		児 童 の 様 子	① 流れに沿って、安心している様子で学習を進めることができています。 ② 自分に置き換えて、物語や場面を考えられることが多かった。その結果、発言が増え、個別にでも考えをもつことができる児童が増えた。 ③ 自身の目標を把握して、学習に取り組んでいた。	
成 果	① 見通しがもてないと不安感を募らせてしまう児童でも、落ち着いて学習に取り組むことができた。 ② 最も身近な学校生活内にあるやり取りを切り取った教材だったため、役割演技も素直な反応であった。興味・関心をもって学習に参加できていた。 ③ やる気を損なわずに参加できる目標を設定することで、言葉掛けの質が高まっていた。		課 題	① 変わり映えのない授業になってしまうので、資料や内容項目に着目させられるような工夫を考えるべきであった。 ② 基本的には教科書の教材を用いるため、自分で選択する回数が少なかった。	

③児童に応じた目標設定 例

	目標設定例	
A	「公平」という言葉の意味を理解する。	自分自身のことを振り返り、誰に対しても公平に接しようとする。
B	「公平」という言葉の意味を知る。	誰に対しても公平に接しようとする。
C	「公平」という言葉を知る。	友達や自分の身近な人と、公平に接しようとする。

⇒通常の学級よりも細かく段階分けしていくことで、スモールステップで児童の心をほぐしていくことができる。また、児童の考えることを焦点化することで、集中して一つの問題に取り組むことができると考える。